

教育委員と幸せになるための教育を実現する会議の懇談会 議事録

日 時 令和5年4月17日（月）午後2時～午後3時20分

場 所 庁議室

出席者 教育委員：教育長、桂、新美、正村、堀崎

会議：鈴木、三浦、神谷、曾根

その他 市長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田

4. 懇談内容

○幸せ教育会議委員

幸せになるための教育を実現する会議（以下「幸せ教育会議」という。）からの提言は、市長から教育委員会に渡していますが、伝わり切れていない点もあると思いますので、感じていること、疑問点など自由に発言をお願いします。

どのような教育が必要かは解っていると思います。また、目指すべき方向性も共通していると思います。立場の違い、理解の違いによってうまく機能していない部分を減らしていくことが、今回の懇談会の目的です。組織同士の意見ではなく、個人で感じている点で良いので意見ををお願いします。

○教育委員

幸せ教育という言葉聞いて、幸せは教えられるもの、押しつけられるものではないと考えますので、教育に結び付けることに違和感がありましたが、総合教育会議で市長からの説明を聞いて、自分自身の整理ができました。この提言を機に、「幸せ」という言葉を意識するようになりました。これは幸せになる教育を考え始めたからだと思います。学校現場で「幸せ」を発信することで、子どもたちが意識することで、幸せについて感じる、考える機会になると思います。その積み重ねが浸透して、子どもたちの幸せにつながると思います。

○幸せ教育会議委員

学校の教育は学力が1番重要と考えている方が多いと思います。しかし、私は子どもたちが、何が重要かをしっかり考え、行動していくことが重要と考えています。

○教育委員

私の小中学生の時の話になりますが、勉強ができない子でも、運動ができない子でもそれぞれで居場所があったと思いますが、今はなくなってしまっていると感じます。学校はまず集団がありその中で個を出していく場でしたが、まず個がありその前提で集団がある場が変わってきたと思います。小中学校は学力の向上を図る場でもあります、集団の中でどのポジションであればみんなの力になるのかが考えることができる場です。

また、考える力が必要です。考える力、思考力には、語彙力が必要です。単に楽しいではなく、どう楽しいかを表現するには、語彙力が必要です。スマホなどで一方的に情報を受けることよりも、学校生活の中で顔の表情や視線の位置などを感じ、考え、表現することで、人と人のつながり重要なコミュニケーション能力の向上につながると思います。とりとめのない話になりますが、世代が異なる方や障がい者との対話、ゆったりした時間を過ごすなどが、幸せな人、幸せな社会を作っていくために必要であると思います。

○教育委員

幸せになるということは人生の目的で当たり前のことです。今回の提言を受け、そのプロセスを教育現場に落とし込むことは画期的だと思います。今までは意識していませんでしたので、改めて意識できたことは良い機会でした。教員として子どもと接する中で幸せを感じるの、子どもたちが一所懸命に取り組み、できないことができるようになった時に、満足の顔を見ることができた時です。その積み重ねが幸せにつながっていくと思います。提言は良い内容だと思います。子供たちと先生が幸せを感じ取れるような取組が積み上げていけると良いと思います。過去に成岩小学校でキャリア教育の発表した時に、子どもたちの自己肯定感が上がったと感じます。今回の取組はキャリア教育をベースに幸せになることを明言し、教育を進めていくことは非常に良いことであるので賛成しています。

○幸せ教育会議委員

幸せ教育会議でも先生の幸せとは何かが議論になり、先生方へのアンケート調査も行いました。幸せになるための教育を実現するためのベースとして、先生の幸せもとても大切なことだと思っています。

○教育委員

親はどうしても「勉強しなさい」「宿題しなさい」と、学校の成績に目が行きがちです。なぜかを親に聞くと「将来、幸せになってもらいたい」との回答が返ってきます。その考えはある程度は理解できます。そのような状況の中で、私が提言書を受け取った時の第一印象は非常にコンパクトにまとめられているため、幸せを押しつけている印象を受けました。提言の奥にある想いまで読み取ることは、提言書を見るだけではなかなか保護者や教員に伝わらないと思い

ます。主任指導主事が、そのつなぎ役を担っていますが、私ども教育委員会も協力して推進していく必要性を感じます。

○幸せ教育会議委員

基本的なことを聞いて申し訳ありませんが、教育委員会の役割について教えてください。教育委員の仕事の中で、幸せになるための教育をどのような立場で、どのように推進していくか疑問に思いましたので質問します。また、私もその一人ですが、一般の保護者は未来志向の教育委員会の議論よりも、自分の子供の学校での成績など目先のことに興味が行ってしまい、教育委員会が何をしているかわからないと思いましたので、素朴な疑問としてお尋ねします。

○教育委員

教育委員会は何かを作り上げる組織ではありません。法律に基づき、学校教育課を始めとする行政である教育委員会事務局がまとめた資料を議論することがほとんどです。私もPTAでかかわった時に存在感を感じたことはありませんでしたが、いざ教育委員になると、校長先生を始めとした教員はとても教育委員を気にしているということがわかりました。教育委員会として教育現場に入っていくことは可能です。また、教育委員会は毎月会議を実施し、学校運営の方針の決定など、教育行政として必要な意思決定機関としての役割があります。いままでは、教育部の事務局から提案の範囲内での議論しかしていませんでしたが、今回のような提言はとても新鮮に感じました。

○市長

市役所でいうならば、決定機関である市議会と似た機能です。

○教育長

教育委員会は教育委員会事務局からの提案を審議し、意思決定をしています。教育委員からの質問やご意見で事務局が作成する提案内容が変わってくることもありますが、事務局の提案を否決することはほとんどないのが現状です。ただし、細かい教育現場の決定は、校長が担っていますので、今回のような提言書に基づく取組を決めていくのは各学校の校長になります。校長に対し、教育委員は助言・指導を行うことができます。

○幸せ教育会議委員

今回の幸せになるための教育を主体的に進めていくのに校長が非常に重要であることがわかりました。私どもの想いを伝えていくには対話が大切であると思いました。

○幸せ教育会議委員

違う視点で話をします。日本ではこの 20 年間、幸せになるために何が必要かを考える必要がありましたが、ほとんど考えられていません。今の社会を前提とした個人の将来像を語るだけで、それ以上深められていません。変化の可能性があるにもかかわらず、今の社会を前提で考えることを改めないといけません。その変化の予兆さえ、見ようとしていないと思います。一例をいえば、幸せになるためには最小限の収入が必要になります。収入を得るためには働く場が必要で、働く場は日本の企業の競争力、国としての経済力が必要になります。IMD が作成する「世界競争力年鑑」では公表が開始された 1989 年からバブル終焉後の 1992 年まで 1 位でしたが、2022 年は過去最低の 34 位となっています。このことから世界に通用する競争力を日本は失っています。しかし、そのことについて考えている日本人はほとんどいません。

子どもたちは無限の可能性を秘めています。30 年前に受けた教育の結果が今の日本社会につながっています。今の社会に問題があるということは、過去の教育に問題があるということです。そのためには今一度、今の教育が良いかを本気になって考えなければなりません。保護者から見れば、自分の子供が一番ですが、この社会で自分の子供だけが幸せになることはありえません。日本規模、世界規模、地球規模で考えていく必要があると思います。新しい時代が始まっているにもかかわらず教育は近い範囲の、近い未来しか見えていません。今のままではいけません。

まずは、このような議論が必要であると思います。絶対的に考える力が不足しています。半田から日本を変えていく気概が必要です。

○幸せ教育会議委員

提言の中でも、教育現場で幸せを子どもたちに教えてほしいというわけではなく、幸せを主体的に考えてもらうことに主眼を置いています。考えてもらうためには対話が重要であると思います。

○幸せ教育会議委員

教育が変化していないと感じます。なぜ変化しないか考える必要があります。幸せ教育会議は強制力を持っていませんが、問題提起はできます。本気で考える人を幸せ教育会議、教育委員会から増やしていきたいと考えています。

○幸せ教育会議委員

幸せ教育会議だけの議論ではなく、教育現場や子どもたちを含んだ取組にしていくことが

必要だと思います。

○教育委員

改革という言葉に対し、教育界は多少なりとも抵抗感を持つと思います。画期的な取組を前面に打ち出して教員に伝え、実施してもらえればイメージしやすいと思いますが、そのような取組をするわけではないので、「半田から変える」ことをどのように取り組むか、頭を悩ますところです。

○幸せ教育会議委員

変化をする時は、大きく変化する者とそうでない者がいると思いますが、教育現場はそれを恐れてはいけません。いずれ、定着していくものだと思います。

○幸せ教育会議委員

どのように進めていくかは主任指導主事が学校現場にお伝えしていることが第一歩であると思います。これから現場に広がっていくことを期待しています。

○教育長

学校や教員に差が出ることは予想できますが、市内で大きな差が生じることは望ましくないと考えます。最初に差が出ることはやむを得ませんが、良い取組はどこかで共有する必要があります。いずれにしても教員の意識を幸せという概念に結び付け、表現していくことが私たちの課題です。まずは校長がやる気になって取り組む必要があり、そのやる気を引き出すことが教育委員会の役割です。

○幸せ教育会議委員

幸せという概念は 100 人いたら 100 通りあることを認める必要があります。その異なる幸せに差があることは当然のことです。

○教育長

そのとおりです。教育委員会としては考えることができる学校と考えることができない学校の差を縮める必要があるという意味です。

○幸せ教育会議委員

私は教育委員会として強制力を持って指導するのではなく、「見える化」することによって各学校が気付く仕組みづくりが必要だと思います。

○市長

主体的に取り組んでもらうことが重要との思いから提言書の2に「各学校、各教員が主体的に自由に考え、進めていくこと」と記載しています。これを受けて、教育委員会として取組を考えていると思います。

○教育長

教育委員会が明確にやることを定めて指示する方が教員にとっても分かり易く、取り組み易いと思いますが、それではよくないと思います。私も現場が主体的に考え、取り組むことが重要と考えています。当初、差が出ることはやむを得ないと思いますが、学校や教員を選ぶことができない子どもたちのことを考えると、取組の差はどこかのタイミングで解消を考えていく必要があります。

○幸せ教育会議委員

先日の卒業式の校長先生の式辞でも「幸せ」というフレーズが出ていました。そのようなフレーズに気が付くことを含め、徐々に幸せになるための教育が浸透している気がします。

○教育長

そのとおりだと思います。まずは「幸せ」に敏感になる、気が付く、考えるところからスタートしていくことがよいと思います。

○教育委員

校長を信じて、見守りましょう。

○教育委員

過去の自分は、対話が不足していたと実感しています。今は対話の重要性や面白さを感じることができるようになりました。これは経験があつてのことだと思いますが、対話することが面白いと感じられることが重要だと思います。教育委員として、対話を通して、幸せになるための教育が面白いなと感じてもらえるように取り組んでいきたいと思っています。

○幸せ教育会議委員

対話を通して、幸せになるための教育を実現することを学校現場に広げていきたいです。必要であれば、校長、教員とも話がしたいです。その結果、想いが広がっていけばよいと考えています。今回の懇談会で対話できたことも非常に良かったと思います。

○幸せ教育会議委員

教員、保護者、子どもたちがやらされていると感じさせることは避けるべきです。提言書や、紙で取組を見るだけの人のために、Q & A などがあれば、より伝わるのではないかと思います。学校現場ではうれしい、楽しい、面白かったなどの感情につながる取組や機会がありますが、幸せに繋げることをほとんどしてこなかったと思います。このような感情が幸せに結び付くことに気が付く取組を積み重ねていくことが、本当の幸せにつながっていくと思います。

また、幸せも人によって多種多様ですので、他人の幸せを否定しないことも必要になってくると思います。今日話を聞いて、身近な幸せからスタートしていけば良いと感じました。

○幸せ教育会議委員

議論を進め、幸せを実現することが大切です。有意義な意見交換することができ、良かったです。より良い半田市を祈念して終わります。本日はありがとうございました。

<終了>